

平成30年度 第3回「ともに考えよう まちづくりミーティング」

平成30年8月5日（日）14時～

金沢市教育プラザ富樫 1号館 123研修室

泉野、長坂台（校下）

(1) 市長あいさつ

【山野金沢市長】

皆さん、こんにちは。

暑いところ、そしてまた、長坂台校下、泉野校下ともに大きなイベントを終えたばかりで、気持ちの上でも少し気疲れが出る時期にもかかわらず、こうやってお越しいただきましたことに改めて御礼を申し上げたいと思います。

私の地元中の地元でありますので、私なりに地域の課題というものを把握しているところではありますけれども、いま一度、こういう場で皆さんから課題をお聞きいたしまして、そして限られた時間ではありますけれども、事前に提出いただいた課題以外でもいろんな皆さんの思い等々をお聞かせいただいて、そして私はもちろんのこと、きょうは市の幹部職員も出席しておりますので、それぞれの細かいこと等々がもしあるようでしたら、職員からお答えさせていただくなり、また場合によっては宿題として持って帰らせていただいで、後日改めてきちんとした形でお答えさせていただく、そんな形での意見交換ができればと思っています。

実りある会にしたいと思いますので、ぜひご協力のほどよろしく願いいたします。

(2) 地域代表あいさつ

【泉野校下町会連合会 会長 笠置氏】

皆さん、こんにちは。大変暑い日になりました。

本日は、皆さん方には大変お忙しい中、まちづくりミーティングにご出席をいただきましてまことにありがとうございます。また、金沢市から山野市長初め局長、多数の方のご出席を賜りましてまことにありがとうございます。重ねてお礼申し上げます。

泉野校下町会連合会は、昭和34年4月に泉野小学校の開設と同時にできまして、ちょうど59年目になります。泉野小学校はまた、十一屋小学校から分離、独立して、全く一緒に

す。本当にありがとうございます。

泉野校下におきましては、現在、人口約9,000人、3,900世帯、町会は44町会ありまして、町会長は44人います。この町会を5つのブロックに分けて、各ブロックより2名のブロック理事が出ております。理事の方は全員、町会長経験者でございます。三役としては、会長1名、副会長3名、会計1名の5名。それから理事10名、監事2名、計17名で構成しております。

44町会のうち50世帯以下の小さな町会が18町会ありまして、他校下と同じだと思いますが、泉野校下も高齢化が徐々に進んできております。今年の6月1日現在、65歳以上の方が約2,400人、高齢化率26.8%になっております。ちなみに金沢市の平均は26.1%というようなことになっておりまして、いつも見ておりましたら市の平均のちょっと上にいるというような現状でございます。しかし、泉野小学校の入学者は本年ちょうど100名、卒業者が96名、1学年大体3クラスを維持しております。昨日、8月4日、先ほど司会の方もおっしゃいましたけど、泉野小学校の運動場で納涼泉野おどりを開催いたしました。非常に子供たちの参加が多くて、私も少しほっとしている次第でございます。

このような環境の中で、子供たちからお年寄りまで、泉野校下に住んでよかったなと思われるように、町会長、理事、各種団体の人たちが手を携えて、安心して暮らせるまちづくりに努力しております。

しかし、時代も変わってきており、住んでいる人たちの考え方や価値観が大きく変化してきております。町会のあり方など役員に課せられた使命がいかにか重大であるかということも改めて感じている次第であります。

今回提出した課題につきましては、適切なお指針をいただければ幸いと存じます。

また、長坂台校下におきましては、6月1日現在、人口9,100人、世帯数4,300、高齢化率22.5%になっており、非常に若々しい、これからの校下、地域だと思っております。

聞くところによりますと、野田町の区画整理組合地域の人口が増えていることで長坂台小学校では去年、3クラスになりました。何かそんなことを前の校長先生からお聞きしております。そんなことで、いろんな形で長坂台はこれからもっともっと伸びていくのではないかなという気がします。

私のほうからは以上でありますので、どうぞよろしく願いいたします。

(3) 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、討議

①避難経路の安全確保（泉野校下町会連合会）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【長坂台校下町会連合会】

今の泉野校下連合会からの課題として「避難経路の安全確保」、課題の内容の中に「ブロック塀や石塀はもちろん、古い建築物、看板等の構造物が倒壊し」ということで、ブロック塀に限らずいろいろ書いてあります。

さらに3番目、課題について、地域での取り組み、特に市との協働で行う事業の提案・提言の中には、「ボランティアが定期的に巡回し」、ここではブロック塀に限らず「構造物の現状把握に努めていきたいと考えている」と。

こういう形の提言がある中で、市の回答は、ブロック塀。これは外構型のブロック塀だけのことを言っているのではないかと考えています。それ以外についてはどのようにお考えかをお聞かせいただきたい。

【木谷都市整備局長】

今は、ブロック塀について、お話させていただきました。他校下のまちづくりミーティングでもよく話題になってくるのが、たとえば空き家になる。それが長いこと放置される。その果てに破損等が非常に出てきて、台風や何かが来た時に瓦が飛ぶこともありますし、地震の際に倒壊することもあるということで、構造物としての安全性というお話もいただいています。

これについては、たとえば外から見ていてというお話だけじゃなくて、中からも見なくてはいけない等、いろいろなことがございます。こちらについては少しレベルが高いので、できたら町会の皆さんで、たとえばここは空き家になっているか、これはどう考えても危ない、といったものについては町会長さん経由で、ということをお願いしているのですけれども、個別の物件としてご相談をいただいています。受付先については、こちらの建築指導課でもつながるが、住宅政策課が、この空き家関係の構造物系の総合窓口という形でやらせていただいていますので、そちらでご連絡をお願いしたいということが1点。

もう一つは、今年度の予算の中で、実は町会の皆さんからこうやってまちづくりミーテ

イングをしていく中でいただいたご提案の一つに、日頃から空き家というものを見つけた時とか、空き家の予備軍みたいなものとか、こういうものに対して町会としてどう対応をしていったらいいのかということ、もう少しわかりやすく、何かハンドブックのようなものでキチンとまとめてくれないか、そうしたら、私ら町会もいろんな形で協力もしやすいというご提案をいただきまして、本年度、そう遠くない時期に、連合町会を通じて各連合町会長、そして町会長に、空き家を見た時にどういう対応をするかというハンドブックを作らせていただきましたので、それも併せてお配りしたいと思っています。

日頃から、町として見守る、監視、そういった目を持っていただくことと、何かあった時には、そこにキチンといろんな形で連絡先も書いてございますので、市に連絡いただきたいというのが、まずは当面の対応になろうかと思っております。

【長坂台校下町会連合会】

空き家もさることながら、これはブロック塀だけを言っている。それもこれは外構型のブロック塀だと思っている。

そうではなく、その後に石塀とかというのを書いてある。たとえば石塀に対しても補助を出すのか出さないかとか。その石塀も石の大きさによっては安全と見るのか見ないのか。ブロック塀と比べて、いわゆる堅牢なものであるという見方をすれば補助になるとかならないとか。ただ単に市の回答は外構型のブロック塀、通常であるところのブロック塀のことしか言っていないという感じです。その後の回答についても空き家だけの話。

ここで泉野校下の課題としてはブロック塀とか石塀とかという話も出ているので、ブロック塀でも大きな通常の化粧ブロックもあれば、大型ブロック塀もあれば、土留め型もあればということですが、そこをどういう具合に考えるか。

空き家については、今言った形でいいのかなと考えますが、避難経路にあつて、空き家よりもむしろ看板とか、壊れやすい石塀とか、そちらだろうなと思います。

【木谷都市整備局長】

正直申し上げて、石塀といっても、ピンキリございまして、今この段階で、こんなやつは危ない、こんなやつは大丈夫、という話は、変に誤解を招いても困るのでお話しできないと思います。

ですから、周りからどう見てもやっぱり危ないな、と思うものについては一度ご連絡ください。うちの建築の専門家に現地を見させて、その上でこれがどんなものかという話を少し考えていきたい。だから、ある程度個別の対応をさせていただければと思っています。

【泉野校下町会連合会】

「避難経路の安全確保」ということですので、ご質問の方のおっしゃるとおりだと思いますが、今回は、この間の大阪北部地震のことを受けて、大抵の方がブロック塀ということ念頭に置いておられると思いますので、こういう回答になったかと思いますが、さらにご指摘の点についてもやっていただけたらと思います。

町会連合会の中にも建築・土木関係の専門家の方がお住まいであろうと思いますので、そういう方たちの中でいろんなことをまたご相談いただいて、そしてさらに疑問点があれば市に持って行っていただければいいのではかと、私、司会として僭越ですが思いました。

②有事の際の近隣地域との連携体制（長坂台校下町会連合会）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【泉野校下町会連合会】

近隣地域との連携体制ということですので、たとえば長坂台の方が泉野校下の泉丘高校とか二水高校に行かれた。そうすると、その人たちの情報をどうやって市に届けるのかとか、あるいは市からは泉野小学校へはいろんな情報があるけれども、そこから先は泉野小学校の中で関係の二水高校、泉丘高校、（市総合・城南市民）体育館へ情報を持っていくとなっているのですが、その時には長坂台校下へは情報は持っていかない、となっていますので、最初に避難された所が指定以外であっても、そういう人たちにきちんと情報が行くように、あるいはそういう人たちの情報が市にも行くようにという、何かそういうことを懸念されているようなご質問だったので、そうだなと思いながらお聞きしました。

ご説明は、そこもありましたけれども、幅広い、色々なところからのご説明でした。

(4) 共通課題についての討議

①泉野・長坂台校下における大雨による大規模災害への備え

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【泉野校下町会連合会】

雨が二、三日で900ミリとか1,000ミリも降ったというのは、もうひとつ我々ピンときませんが、(雨量が)300ミリの場合、雪の高さでたとえると1メートルです。だから、雨が1,000ミリだということは、雪に直すと3メートルぐらいの高さの雪ですね。今年の雪、八十何センチだったそうですが、それでも我々大変苦労しました。それが3メートルの雪だったらどんな苦労するかわかりませんが、雪にたとえるとそれぐらいの大変な雨が最近降る。

私、学生の頃は1時間に35ミリぐらいの雨で側溝の設計をなさいととか、そういうのが公務員試験によく出たが、今は35ミリなんて平気でどんどん来ますので昔の数字では全然ダメです。今回新しく大きな数字にして、そしてこれまでは安全だったと言われたところが、ひょっとしたら危ないぞということを考慮して、避難あるいは対策を立てるよということのご説明だったと思います。

【泉野校下町会連合会】

今、高齢化の問題で、マクロな話は結構お聞きをしまして、何%だという話は聞くが、もう少しミクロに考えてみますと随分違って来るわけです。

町会では第1次の避難所は町の真ん中、本当に小路の入り組んだところなんです。そこから集まって、どこへどう避難するのかと。校区が非常に離れておりまして、泉野校下の端のほうでございますので、そこまで果たして行けるだろうか、ということもありますが、防災訓練を毎年やっております、避難はこういう具合にして歩いていくのだ、という話はあるが、果たして本当にそうなれるのかどうか。

それから、高齢化も非常に進んでおりまして、そういう方たちをどう誘導するのだということ、防災訓練に参加し、お話を聞かせていただく中でそんなことを感ずるわけでございますけれども、先ほどお話ございました、各町会でも話を聞いてあげますよということも、ぜひ一つお願いしたいです。

また、防災のいろいろものを考える中で、非常にミクロな地区で随分違うのだよ、という話をお聞きいただいて対策いただきたいと。

それから、たとえば泉野小学校の上にスピーカーがございまして、防災のいろいろなスピーカーを流すこともあるそうでございますけれども、残念ながら校区の端のほうは全然聞こえません。ですから、たとえば非常時の連絡網、これも考えながら、もう1カ所どこかへスピーカーをつけるとか、あるいはもう少し何か別の方法で考えていただければと。

パソコンという話もございましたが、到底パソコンを使えるような人たちではないですし、携帯電話もどうかするとスイッチ切って、かける時だけ使っているというような使い方もありますので、非常に次元の低い話でございますけれども、そこらあたりご配慮いただいて、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ついでにもう一つ、先ほどブロック塀の代わりに生け垣だとか、板塀だというお話がございましたけれども、防火あるいは防災ということを考えますと、もう少し幅を広げて新しい材質なり新しい塀のつくり方とかを考える必要があるのではないかと。そんなものに対して援助する必要があるのではないかと、という気がしました。

確かに金沢はギンモクセイ、キンモクセイということで、樹木があつていいのですけれども、ただ防火と防災を考えますと、本当にそれでいいのか少し気になりますので、そのことだけあわせて申し上げておきたいと思ひます。

【古危機管理監】

避難ということでお答えさせていただきたいと思ひますが、今おっしゃられたとおり、その地区によって抱えている問題等が違いますし、遠い所からどうすればいいのかという問題がござひます。それを解消するために地区防災計画というのを作っていただきたいと思ひているが、その中で町会の方々が入つていただいて、作ってもらわないと全く意味がないものに仕上がつてしまひますし、実際使えないものをつくつても全く本当に意味がなくなつてしまふので、ぜひその中に入つていっていただきたいと思ひております。

もう一つ、金沢市で今進めていますが、コミュニティ防災士をつくつて皆さんに普及していただくように取り組んでいるところですが、各町会に最低1人の防災士が欲しいと思ひています。大きい町会になりますと300人、400人ぐらいの町会もござひます。そういったところに関しては、やはり2人ないし3人、と防災士の数を増やしていきたいという計画もござひます。とりあえず1年間に100人ずつぐらいは増やしていきたい、10年で1,000人ぐらいの防災士をさらに増やしたいと考えているところでございます。

そういった防災士が町会から出てきますと、町会としてどこに避難したらいいのか、こ

この町会はどこに避難したらいいのか、というのが見えてくることもわかっておりますので、ぜひその辺ご協力いただきながら、一緒になって進めていきたいと思っております。

それともう一つ質問がありました、防災無線の件でございます。

こちらについても、本当はたくさん増やせばいいのですけれども、大雨や外に大きい音がすると、はっきり聞こえないという問題がございますし、さらに最近の住宅はものすごく密閉性がいい。外の音が聞こえてこない。ですから、防災無線を鳴らしていても何を言っているのかよくわからない、ということをよく聞きます。危機管理課でも、何か聞き取りにくいということで、スピーカーの位置を少しずらしたり、向きを変えたりとかいろいろなことをやっているが、やはり、何を言っているのかよくわからないのですが、というご質問もよく危機管理課に届いてきます。

そういった時には、防災無線で何か言っていたら、すぐテレビをつけてくださいと。テレビをつけると必ずテロップが流れます。防災無線が鳴るようなことは必ずテレビで放送することになっております。ラジオでも放送します。ですから、もし何かスピーカーから音が流れていると感じていただければ、ぜひそれをしていただきたいというのが一つ。

そしてもう一つは、ぼうさいドットコム、先ほど携帯を持っていないという人もたくさんおられるとおっしゃられました。そのとおりです。携帯を持っている皆さんがぼうさいドットコムを入れていただいて、そこに防災情報がどンドン市から発信できてやっておりますので、今こういう状況だということを全てわかるように発信はしているが、ご高齢の方でなかなかそういったものを使わない、という方もいっぱいいらっしゃいます。その方に教えてあげてほしい。おばあちゃん、避難勧告出たよ、ということ。自分の命を守ることが第一ですけれども、逃げる際には「おばあちゃん、おばちゃん、危ないよ、一緒になって逃げよう」と声をかけていただきたい。こういった行動も私どもはしていただきたいと思っている。一軒一軒私どもがご高齢の方々のところにお知らせすることは難しい。ですから、皆さんのコミュニティの力をお借りいたしまして、ぜひそれを実践していただければ多くの方が助かります。

実際、今年度の西日本で災害がございましたけれども、あちらについても報道を見ますと、町会長が一軒一軒、危ないから避難しようと言って全員一緒に避難させた町会は死者も出ておりません。全員避難していますから。一方、バラバラで、避難勧告がまた出ている、というくらいのところは、残念ながらたくさん死傷者が出ております。

ですから、やはりそういったコミュニティの力が強いところは最終的に避難される、助

かるということも感じておりますし、私どももとにかくそういった情報をいかに皆さんに多く、早く、そして正確に伝えるかということが課題となっておりますので、ぜひご協力願いながら一緒になってやっていきたいと思っております。

私からは、この2点についてご説明させていただきました。

【木谷都市整備局長】

私からも一つだけ、板塀の関係です。

正直言って個人の塀というものは、その家にとってプライバシー保護のためにつけたいという気持ちはわかりますけれども、なければいけないものではないと思っています。ということで考えていくと、今、板塀と生け垣に対して補助しているのは、実を言うと、重伝建とか板塀というものが昔ながらのものであったという、それを再現、復元するためという意味合いで補助をしています。生け垣については、もう一つ環境のことを考えて、景観にもプラスですし、やっぱり緑を増やしたいという意味で、一つの補助制度を持っております。ただ、ほかの材質という話が出てきたときに、個人の財産である塀や何かに対して補助をどんどんしていくというのは、基本的に今の段階ではちょっと流れが違う、と市では思っています。

要するに、壊れてこれが万が一事故につながるというブロック塀の撤去は、お手伝いとして税金を投入してでもやっていかないといけないと思っています。緑を増やすために、という生け垣もあります。ただ、ブロック塀を新しい別のものに替えるための補助というのは、これは個々の皆さんにご自宅の都合、たとえばどのくらいプライバシーを守らないといけないか、とかでやっていただきたいと思っています。

【泉野校下町会連合会】

新しい材質を金沢市で考えていただいて、それを使っていた場合はこうすると。ブロックは防火の面もあると思う。火事ということを思ったので申し上げました。

【木谷都市整備局長】

防火に関しては、基本的に建物自体の防火になると思います。ブロック塀で、本当に防火に効くほどの高さの塀をするということは、通常一般の戸建ての家では普通はないかと。人の背丈を楽に超える、要するに1階を超えるくらいの高さまで塀をしてあれば、こ

れは防火にもある程度効きます。ただ、ある程度の、通常のブロックの高さというのは、火が出て、火の粉が飛ぶ時に、これをシャットアウトできる高さはまずないかと。

そうすると、防火に関しては、今やっているのは基本的にさらされる建物の表面、特に向かいから火の粉が飛んでくるものに対して、どれだけ火の粉がついても極力燃えないもの、というのが今の流れかと思っています。

でも新しい、色々な材質は大切なことで、市が直接開発できるものではないので、また色々な業界や、県の工業試験場などもしっかり連絡をとって、少しでも安くて、防災・防火性能のいいもの、そのようなものについて、コレだ、というものがあれば、また皆さんにもお伝えしていきたいと思っています。

【泉野校下町会連合会】

先ほどのご質問で、密集地域で家が古いと。道もそんなに広くない所で地震になれば大変だということをおっしゃったように思うのですが、そこでまずできることは、耐震診断、耐震設計、耐震工事をしていただく。お金が要るが、私が計算したところによると、それを全部やると、たとえば300万円かかれば、200万円ぐらいの補助を市から得られる。だけど、100万円は自分で出さなければいけないということです。

お金がある方はいいのですけれども、100万円も難しいという方もおられるかと思えますので、そのあたりについては、また市で研究していただいて、何とか応援していただきたいと私は思いました。

【木谷都市整備局長】

今、耐震関係の補助では、市では上限160万円という形で、個々の建物の耐震、戸別の戸建て住宅ですね。それについては160万円というのが、今行っている最大の枠になります。かといって、160万円とか、いろいろと制度についても国も新しくシステムを変えられたので、それに合わせて、新年度においては見直しをしているところではあります。

ですから、そういった意味でいろいろな検討はしていきます。ただ、今手持ちがないから、ということだけで全額というのは多分無理だと思います。やはり個人の財産というものの自体を管理するためには、持ち主の方のご協力も得なければいけないと思っていますので、極力少しでも1軒、2軒、特に密集市街地では大丈夫なものが多くなることによって、面として安心の度合いが高まるという公共性というのはしっかりありますので、危険の度

合いのエリアであるとか、そのようなこともしっかりと勘案しながら、制度の見直しをやっていきたいと思っています。

今現在、金沢市もたとえば一戸建ての関係で160万円というこの補助制度の金額は、私の知る限り全国でもほぼトップクラスです。他のところで、ピンポイントで見た時に、金沢市よりもいいところはありますけれども、それはたとえば、南海トラフと言われているところの、しかも密集している、そういうケースのところでは、金沢市よりレベルの高い補助制度を持っているところはありますけれども、通常、一般の日本海側や他都市と比べると、今のところトップです。

それでももう少し、どうすればうまく使えるか、使っていただけるか、耐震に対して関心を持っていただけるかについては、しっかりと研究して、また制度の改良はやっていきたいと思っています。

【泉野校下町会連合会】

我々の住んでいる泉野、それから長坂台というのは、非常に有利な点として大桑に防災拠点がある。もし何かあった時には、全国から大桑の防災拠点にいろんな災害救援の物資が来る。そこから情報も来る。それから、あそこにはトイレが、普段は椅子になっているのですが、その椅子をめくればトイレになる、我々は非常に近いので、そういう意味では大変優遇されていると私は思います。

だから、有事の際、もちろん隣の校区へ避難するというのは大いにありだと思えますが、市との連絡の時に、泉野校下はどうだ、長坂台校下はどうだと言われた時に、いや、泉野だけじゃなくて長坂台の人も入っているとか、そういうことがややこしいので、それは今後検討していかなければならないと聞きながら思いました。

皆さん、いかがでしょうか。

【泉野校下町会連合会】

私はこの話の難しいところは少し横に置いて、一番身近な問題だと思うのは、コミュニティの防災力だと思っています。

実際、大きな地震があった時に、高齢者の住宅は把握しているのですけれども、本当に連れていけるのかが一番頭にあって、無事1年過ごすことができ、ひと安心した。

今度は町会の理事になったのもう一つ、一段上の立場で物を見なくてはいけないと思

うが、その問題は私の不安からは一つも逃げていない。ますます大きくなっていく。たとえば泉野小学校は避難所になっています。本当に連れていけるのか。元気な人は大丈夫です。ところが本当に年寄りを把握していると、まず安否確認さえできない。そういった地域間のコミュニケーションができていない。

私、町会長になるまでは隣近所と、二、三軒隣はよく知っていますけれども、班が変わると全く知らない。誰がどこに住んでいるかわからない。町会長になって初めて住民台帳をもらって、この人たちがいるとか、たとえば高齢者の届け出、その名簿をつくるなど、そういうことでやっと把握できる。

町会長が輪番でなっていますが、それだけの知識、それから個人の力で防災コミュニティの対応力が賄えるのかと。まして、この地区は先ほどありましたように、大雨も地震もない。比較的安全になってきた、という安心感もある。だから、なおさら油断もある。

防災拠点に行くときに、いつから泉野小学校が開くのか、多分連絡があると思うが、その予行練習さえもしていない。ですから、予行練習もなしに一発で来たときに、防災力は弱いなど。何人か経験された方がどこかにいて、ほとんどの方はそうなるのではないかなと。それが一番私としては気がかりで。

体制、組織とかシステムとかあります。立派なものができるけども、基本的にはそれが本当に身近な隣近所、町内、班内で賄えるのかというのが一番心配事です。災害がないのは幸いですけれども、あった時の対応というのは、じいちゃん、ばあちゃんを探して連れていくのだという訓練が実際できるかと。それをやるためには、かなりコミュニケーションのある町会でないとなかなか難しいと思っている。

先ほどプライバシーの問題があると言われましたけれども、やはり強制力がそれに及ばない部分がある。防災訓練でさえ出てくる人が少ないですから。出てくるのは役員か、今まで経験して出てくる人ばかりですから。それが実情です。ですから、コミュニケーションの防災能力というのは本当にどうしたら高めていけるのか。繰り返しやっていく方法がないと、年1回の防災訓練だけではなかなか難しいかなと思っています。これは多分皆さん、なかなか解決策のない一番の悩みじゃないでしょうか。

意見でも何でもないが、私の思っている心情としては、町会の役員としてはそのことが一番心配で、何かあったらどうしようということを考えています。考えていても、それは役員だからモチベーションがある程度できてくるのであって、その場になったときに、誰々さん、どこのじいちゃん連れていってね、ということをしてすぐ皆さんができるかどうか

となると、なかなか考えていないのではないかと考えています。

【泉野校下町会連合会】

そこまでやっているところは余りないと思うのですが、たとえば泉野校下だと、昨日は盆踊りをやりました。役員の方々は大変ご苦労されたと思いますが、ああいう中でそれがコミュニティの醸成に直結するかどうかわかりませんが、そういう方向のことをやっていただいていると思います。それから、社会体育大会も同じであると思います。

そういう中で、隣近所の顔が見えるとか、あるいは独身の男の方と女の方が知り合いになるとか、そんなことになればコミュニティの醸成もされていくかもしれないなと思いつつ、役をやらせていただく時に思っていました。

コミュニティの醸成って言葉は短いですが、なかなか難しいと思います。ご指摘のとおりだと思います。

【古危機管理監】

本当にすばらしい意見だったと思います。ものすごく自分の中の志が高いから、今のご意見が出たのだと感じました。

実はおっしゃるとおりでして、コミュニティの醸成というのはものすごく難しい。皆さん方と一緒に行動するというのは非常に難しいわけですが、コミュニティというのは、先ほど司会の方からもご意見ございましたように、色々な方面から一つ一つ積み上げて初めて、コミュニティの醸成というものができると感じております。そのコミュニティの醸成の中で一番大事なのが防災というところにあるかと考えております。

ですから、やはりコミュニティを一つ一つ積み上げていく中で防災というところを考えていただければいいかと思っておりますし、防災訓練、確かにいろんな地区で頑張っていていただいております。熱心な地区もあれば、うちなんてどうせ災害なんて起きない、とそうでもない地区もございます。やっていただくだけで本当にありがたいのですが、これを毎年同じメニューでやるのではなくて少しメニューを変えていく、そういった地区もございます。いろいろな問題が、たとえばペットの問題が出てくると、じゃあ、ペットをどうするのかという問題も含めて、次の防災訓練にこれを取り入れようとか、この地区には外国人の方が増えてきたから外国語の対応をどうしたらいいのか、というのを防災訓練の中に取り入れていく、そのような事例もございます。その地区毎によって、

そういったものを取り入れて、熱心に町会を一つ一つ、たとえば町会を変えて、今年度はあの町会とこの町会、同じ校下の中でも3つの町会を重点的にやる、次はほかの町会を重点的にやる。ただし、全部が参加するのですけれども、重点的に行う町会を決めて訓練をやっておられるという町会もございます。

そういった中で、子供も全部ひっくるめて参加させてやっている地区はやはり防災力が高くなってきますし、コミュニティの力というのもますます活性化していくので、本当に志が高いので、私としてはものすごくうれしいですし、力強いお言葉をいただいたなどは思っています。

【泉野校下町会連合会】

私も今まで役員をやるまでは、盆踊りも体育大会も出てこなかった。自分の行事もたくさんありましたから。一応町会長をやって、それから町会の役員をやるようになってから、これは大事なコミュニケーションのツールだと割り切っています。もうこれは楽しいかどうかではなくて、ここがコミュニケーションの一つの原点だと。これで皆さんが遊んでくれば、少しコミュニケーションの力がついたということで、私はなった時に気がつきました。これが何も無い時にすぐに役立つ一つの方法だなと。ただ、それ以上の会がなかなかないのが残念だな、と思っていますけれども。

(5) その他質疑応答

【泉野校下町会連合会】

公民館の問題で少しお話ししたいと思う。

今現在は城南公民館というので、十一屋、泉野、長坂台の3校下でやっております。約1万世帯以上になりますけれども。

そこで、泉野校下も3年ぐらい前から、いろいろな方から、何で泉野に公民館がないのかという話が長老の人からたくさん出るのですけれども、調べてみますと、寺町1丁目と2丁目の間にあった。闕野神社って皆さんご存じだと思うが、その下にあり、そこにあった時には泉野の住民はみんなそこへ行く。聞いてみると、そこで結婚式もやった、という話も出ておりました。今だったらもう本当に、どちらかというと公民館の前は長坂台、それから後ろは十一屋校下ということで、寺町3丁目、4丁目近くから、あそこまで行くのにお年寄りの方は絶対行けません。それで何かやってくれないかという話がありまして、

共通課題じゃないが、自分からお願いしたいと思っている。

これはすぐにできるものではないが、先ほどから言っている地域コミュニティの醸成に、とても重要なことだと思う。公民館は生涯学習の場でもあります。それから、城南公民館にも泉野校下から結構行っている。ただ、行くのには車が、割と中年の方とか女の方でも泉野校下は多いのですけれども行っておりまして、聞いてみますと駐車場がない、あるいはバスで行くと実は120円か140円、寺町2丁目か3丁目から乗ると高いというようなこともお年寄りから聞きます。

今現在、社会福祉協議会が市から泉野サロンを無料で貸していただいている。小学校の前に。毎週水曜日と金曜日にサロンを開きまして、大体30人前後、(月7回)だから210人か、大体(1年で)2,500人ぐらいそこで集まっている。その他にいろいろな町連の理事会もそこでやっておりますし、社会福祉協議会の理事会も、民生委員・児童委員の定例会もやっております。それから、各種団体の集まりもやっております。その近くの町会も2月と3月、総会をやっております。学童保育は別にあるが、学童保育の運営委員会もそこでやっております。大体合わせますと4,500人から5,000人になります。その他に生涯学習というのがもしそこでやれるようになれば、どれだけになりますかね。7,000~8,000人ぐらいになるかと思います。それから、防災の拠点にもなります。いろいろな形であります。

ただ、3年ほど前から出てきたというのは、去年かな、四十万の話が新聞に出ましたね。それで、新聞に大きく出ましたから、なおさら火がつきまして、私のほうにもちょくちょく、それから三役会でも話があったので、じゃあ、今日の話題にちょっと出してみようということになりました。

いろんな形でまた皆さんのお知恵をお借りして、今すぐというわけにはいきませんが、やるとしたら期成同盟会とかいろいろなこともあります。寄附の問題もあるかと思いません。そんなことも含めて、時間も余りないのでお教え願いたいと思います。

【野口教育長】

現在、泉野、長坂台、そして十一屋の3校下におきましては、城南公民館としてコミュニティの中心としてご活用いただいております。地域住民の生涯学習に当たります学びとか交流の拠点ということで、特に城南のことぶき学園の開講、それから磯田謙雄技師を通した台湾との交流といった独自の魅力ある活動をご展開いただいているかと思っております。

公民館というのは、ご存じのとおりでありますけれども、金沢方式ということで地域が主導、それからボランティアの参画、そして地元負担、この3つの大きな特徴が金沢方式ということをおっしゃっていただいておりますけれども、おおむね金沢市内のそれぞれの小学校の校下を単位として公民館が設置されている状況であります。

そんな中で、城南公民館の他に今ほどありましたように額公民館、それから大徳公民館など少し広い範囲の中の幾つかの校下がまたがって公民館が設置されて、そんな広さとかスケールメリット等を生かしたいろんな事業が展開されている公民館があることも存じております。それから、皆さんもご存じのとおりだと思っております。

この中で今、額公民館におきましては四十万校下の住民の総意を踏まえながら、額校下との調整を経ながら、現在新しいコミュニティの拠点となる四十万公民館、この建設事業が進んでいるということでもあります。金沢市といたしましても、これからも地区公民館の運営につきましては、地域の自主性をあくまでも尊重しながら、地区公民館の皆様と連携とか相談を行うことによって、地域の教育がさらに高まってくるよう、地域コミュニティの醸成に向かってしっかりと取り組んでまいりますので、何かございましたらお話もいただきたいと思っておりますし、お互いにまたご協力をさせていただこうと思っております。

(6) 市長まとめ

【山野金沢市長】

冒頭申し上げましたお休みのところ、また日中、この暑いところ、お越しいただきましてありがとうございます。

防災を突き詰めていけば、もちろんハード的なことは行政、国、県、市でしっかりと対応できることはやっていかななくてはいけないと思っておりますけど、究極は、先ほどおっしゃいましたようにコミュニティに尽きると思っております。

大変わかりやすくおっしゃっていただきました。泉野校下が昨日やった盆踊りであったり、長坂台校下の盆踊りであったり、それぞれバーベキュー大会とかいろいろなことをされています。私はそういうことの積み重ねが最も大切なのではないかと思っておりますし、もっと言えば、そのイベントも大事ですけども、イベントの準備の期間で顔を合わせたことがコミュニティの醸成につながっていくと思っております。

ただ、残念ながら、そのことでさえなかなかご関心を持っていただけないという方もいらっしゃるようでもありますので、それは我々もいろんな形で情報を多くの市民の皆さん

にお伝えをするようにしていきますし、市民の皆さんもご自分から情報を集めに行っているような、そんな環境も作っていかねばいけないと思っています。簡単ではありませんけれども、ここを一緒に取り組んでいければと思っています。

それと、このまちづくりミーティングで大体4年を一つの目処にして全ての校下でさせていただくようにしておりますけれども、私の記憶に違いがなければ、前回、泉野校下で議論があったときの一つで、泉野1丁目の泉野横断陸橋のことについてお話が出たかと思っています。陸橋について、相当古い、昭和43年につくられたものであります。もう45年を過ぎている大変古いものであります。改めて平成26年度に道路法に基づく定期点検を行ったところでありまして、その定期点検において構造上の安全確認をしているところでもあります。

ただ、やはり錆が出ていたり、少し不安だというお声もあることも、4年前もそうでしたけど、今回は出ませんでしたけど同じ思いを持っている方もいらっしゃるかと思いますので、繰り返しになりますけれども、平成26年度の法律に基づいてきちんと調査をした、定期点検をした。ただ、これで終わりでもありませんので、引き続き定期的な検査を、目視だけではなくて、していかなければいけないと思っていますし、必要であるならばしっかりとした修繕もしていかなければいけないと思っています。

また、弥生小学校の前にあった陸橋が数年前に撤去されました。あれも地域の皆さんと話し合いをした上で取り組んできたことでもあります。すぐ近くに信号もありますので、必要ないのではないかというお声も4年前あったかと思っていますけれども、引き続き地元の皆さんと意見交換を密にしていきながら、きちんと安全確認していくのは当然のことではありますけれども、今後の対応策については皆さん方のご意見もお聞きをしながら取り組んでいきたいと思っています。

いろいろな形で、今日だけではなくて、ご意見もまたいただければと思います。

本日は本当にありがとうございました。